

スポーツが地域を活性化させるためのメカニズムの解明

1140428 清藤修司 那須研究室所属

高知工科大学マネジメント学部

1. 概要

現在、スポーツが身近なものとなっているが全国のスポーツ人口率を見ても年々減ってきている。スポーツを活用した地域活性化の実現にはどのように活用していくのか。そのためには、スポーツ人口や経済効果の促進が必要不可欠である。

徳島県のサッカークラブである徳島ヴォルティスは、2013年J1昇格を決めたが、これはアマチュアであった日本サッカーリーグを通じて、四国のクラブが日本の最上位リーグに所属したことはなく初の事例である。これにより徳島県では地域の活性化につながっている。本研究では、高知県で活動を行っている高知ファイティングドッグスを取り上げ、どう活用するのかを明らかにすることで地域活性化の実現へと結び付けていく。

2. 背景

高知県では歴史や特産物など様々な分野で地域活性化を行っているが、スポーツと活性化の関係性はどうなのか？高知県で活動を行っているプロアマチュア球団高知ファイティングドッグスの経営を取り上げ研究したいと考えた。スポーツが魅力の一つとなり、どう活用していくことで地域活性化につながるのかと考えた。

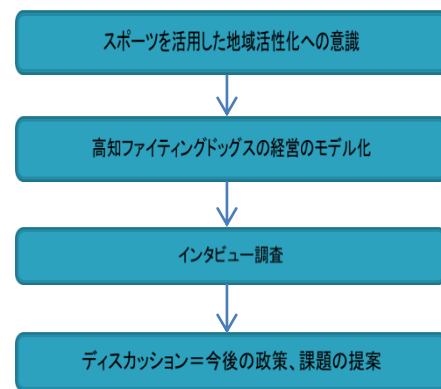
3. 目的

スポーツを活用して地域を活性化する方法を提案する。その為に、スポーツがどの様に地域活性化を実現出来るか、そのメカニズムを解明する。

4. 研究方法

本研究では、まずスポーツを活用した地域活性化の在り方について意識を向け、地域を活性化するとは何なのかを考えていく。これを考えた上で、高知ファイティングドッグスの

経営や活動を消費者行動論体系の消費者意思決定過程モデル（CDPモデル）を基にモデル化を行う。作成したモデルを使い高知ファイティングドッグスの方と今後の課題、活動に対する提案のディスカッションを行っていく。（図1）



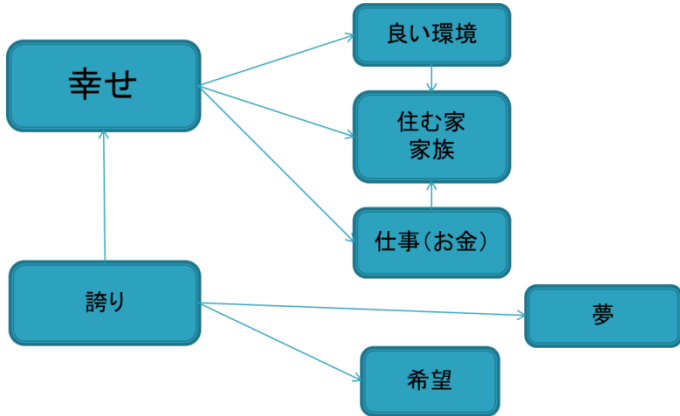
（図1）研究方法の図式化

5. 地域活性化とは何か？

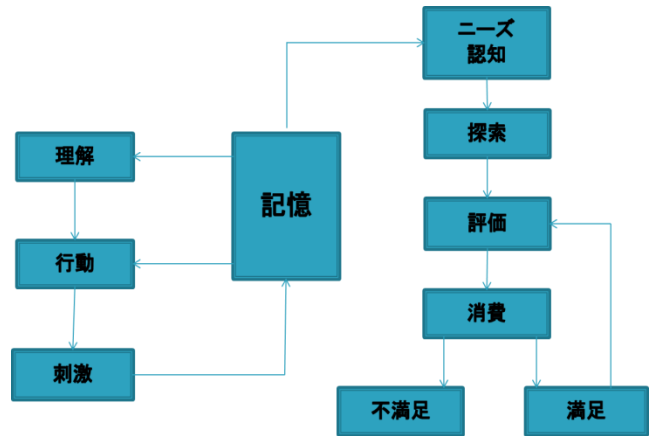
まず、地域活性化とはその地域に住んでいる人たちにとっての様々な幸せを感じることが出来るあるいは豊かな生活の存在である。では、どのようなものが存在すれば幸せと感ずることが出来るであろうか。幸せであるためには、良い環境で住む家があり、家族の存在、生活していくためのお金（仕事）が考えられる。経済的な面以外でもその地域に誇り（夢、希望）を持てる何かがあるかどうかなどが幸せを感じることにつながる（図2）。人々は生活を支える仕事を不得て住みたいと思ひ、故郷を誇りに思えることを望み、豊かな環境と生活または誇りを享受することを望んでいる。

高知ファイティングドッグスの存在が活動している地元地域にとって誇りを持ち、将来プロスポーツ選手を目指す子供達に夢や希望を与えていくこと。さらに、まだスポーツを一度もしたことがない子供達や外で遊ばない子供達に活動を通

して目標を与える一つのきっかけになることが活性化の実現に近づくと考えている。



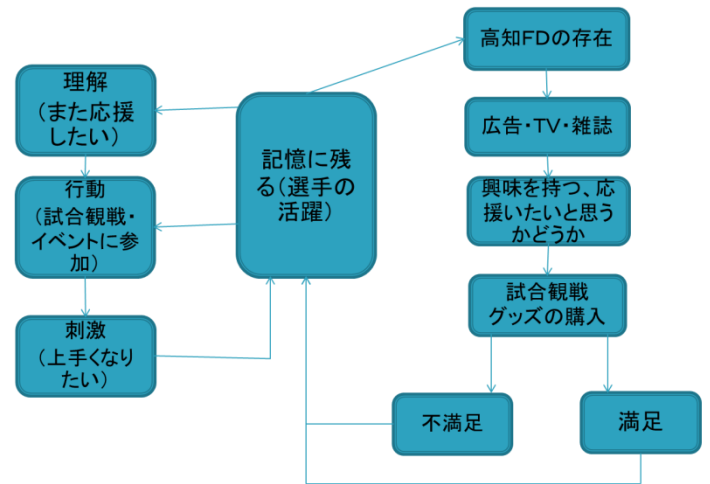
(図 2) 地域活性化の在り方



(図 3) スポーツの魅力による消費者の意思決定

6. スポーツの魅力による消費者の意思決定

消費者はどのような意思決定をして行動に移すのか。消費者行動論体系のモデルの一つであるCDPモデルを使い高知ファイティングドッグスがどのように認知され評価、消費へとつながっていくのか(図3)。高知ファイティングドッグスを地域の人たちは広告、テレビ、インターネットで探索をしてイベント、活動を通して興味を持ち、応援したいと思うか。応援をしたいと評価がされたら、人々は試合観戦、球場でのグッズ購入などの消費をする。消費をした結果、満足、不満足であっても記憶に残り記憶から理解へ、理解をした後行動し、その行動をすることで刺激を受ける。その刺激が記憶に残りニーズ認知へとつながる。消費の結果満足の場合、評価へと戻り消費の繰り返しになる。つまり高知ファイティングドッグスの試合を見て楽しい、面白い、選手の活躍を見て応援したいと感じられた場合また試合観戦に来るということである。(図4)



(図 4) スポーツの魅力による消費者の意思決定 2 ⇒高知ファイティングドッグスについて

7. スポーツを活用した地域活性化の事例

7. 1 プロサッカーチーム徳島ヴォルティスの活性化の在り方

2004年9月に設立された「徳島ヴォルティス株式会社」が運営会社であり、徳島県、ホームタウンの各自治体(市町)、大塚製薬グループ、徳島新聞販売所(徳島新聞本体は一般社団法人のため販売店を運営する子会社が出資)、四国放送、ケーブルテレビ徳島、阿波銀行、徳島銀行、四国旅客鉄道、テレビ鳴門、トヨタカローラ徳島などの企業・団体などが出資している。徳島ヴォルティスは、2004年Jリーグ加盟申請後2005年からの入会が認められ、J2リーグで戦ってきた。中々、結果が出ず苦しんでいる時期もあったが、2013年選手

の活躍により最終節が終わった段階での順位が4位とプレーオフに持ち込んだ。プレーオフ決勝戦でも京都に勝利して四国地方のサッカークラブとして初となるJ1昇格を勝ち取った。アマチュアであった日本サッカーリーグ時代を通じても、四国のクラブが日本の最上位リーグに所属したことはなく、徳島ヴォルティスが初の事例となる。

徳島ヴォルティスは、スポーツ水準の向上、スポーツの普及、豊かなスポーツ文化の確立心身ともに健全な青少年の育成県民の交流促進を企業理念として、試合の本質では「いつでも」「誰でも」「みんなで」「楽しい」スタジアム像を目指している。

- ①だれもが気軽に行けるスタジアム
- ②にぎやかで楽しいスタジアム
- ③ファン・サポーター・県民の集うスタジアム
- ④仲間づくりができるスタジアム
- ⑤レフリー、選手、全てのファンとサポーターがお互いに敬意を払い、表現できるスタジアム
- ⑥徳島への愛着を感じることでできるスタジアム
- ⑦危険な行為・暴力行為のないスタジアム



これは、試合に出る選手たちが子供たちに夢を与え、より多くの感動を与えられるよう、常にフェアですがすがしいプレーを見せるために全力を尽くしている。サッカーだけでなく地域のためになる活動も広げており、徳島ヴォルティスのマスコットキャラクターである「ヴォルタくん」が交通安全運動、鳴門クリスマスマーケットに参加し地域を盛り上げた。また、献血活動やボランティア活動にも力を入れ、地域貢献を行っている。こういった活動が信頼を得ることにつながり応援という形になる。J1昇格により来年はさらに徳島ヴォルティスの活躍が期待され、ホームだけでなくアウェーの試合で徳島の町が盛り上がるだろう。

7. 2 四国アイランドリーグで活動している愛媛マンダリンパイレーツについての事例

愛媛マンダリンパイレーツの経営について2013年2月15日、愛媛県民球団は2012年度の決算について、経常損益が160万円の黒字となりチームの独立採算制移行以来初の黒字決算となると発表している。スポンサー収入が前年比で1800万円増加したことに加え、県の緊急雇用対策による補助金も寄与したと報じられている。当初予定より1年早い達成で、リーグで単年度黒字となる球団は2011年度の高知に続き2球団目である。

愛媛マンダリンパイレーツも徳島ヴォルティス同様に県、地域のためになる活動を行っている。野球教室（県内各地で開催）、地域行事（お祭りを初め地域の行事に参加）、施設訪問（幼稚園、授産施設を訪問）、PR・キャンペーンを中心にしている。活動件数を見ても年々増えており、愛媛県民の方々に親しまれる球団を目指し、努力している。

愛媛マンダリンパイレーツでは、四国アイランドリーグplus オフィシャルスポンサーの「四国コカ・コーラボトリング株式会社」からの支援により、「愛媛マンダリンパイレーツ応援自動販売機」の設置活動の展開が実現している。応援自動販売機での収益の一部が愛媛マンダリンパイレーツの活動資金となり経済効果につながっている。



図6 設置要請から支払いまでの流れ 公式ウェブサイト引用

平成21年から愛媛マンダリンパイレーツが、オフシーズンを利用して、県民とスポーツを通じて交流する活動をモデル事業として集中的かつ継続的に実施している。

- (1) 子どもとマンダリンパイレーツ合同合宿事業

愛媛マンダリンパイレーツのキャンプシーズンインにあわせ、小学生（高学年）との合同合宿を行い、野球を中心としたスポーツ等による交流を深めることによりシーズンインを盛り上げるとともに、集団生活による参加者相互の交流を図り健全育成を促進。

（２）福祉施設スポーツ交流事業

児童擁護施設や障害児（者）施設等で交流を行うことにより、入所者の元気づくりを促進している。特に、活動期間に年末年始が含まれ、この期間、施設入所者の多くが自宅や親類宅等に帰省する中、帰省先のない入所者が増えている現状を踏まえ、この期間に活動を行うことにより、福祉の向上が期待できる。

（３）ちびっこスポーツ教室開催事業

小学生、幼稚園・保育園児を対象に野球を中心とするスポーツ教室を実施することにより、子どもたちの健全育成の促進を目指す。

（４）一日少年野球団監督事業

愛媛マンダリンパイレーツ選手が少年野球（ソフトボール）チームへ出向き、一日監督として指導を行う。

愛媛マンダリンパイレーツと県民のスポーツを通じて交流回数も増えており、スポーツ振興を促進している。

愛媛マンダリンパイレーツの活動の多さが地域貢献につながり、地域の方々からの信頼を得ることができ、愛媛県を盛り上げることに繋がっている。

7. 3 四国アイランドリーグで活動している香川オリーブガイナースについての事例

レクザムスタジアムを初めとするガイナースのホームスタジアムを”ガイナースボールパーク”として、コンコースにフードコートやコンビニエンスストア、インターネット設備を導入。選手紹介ボードを設置して、より楽しめる空間を目指している。また、会場に飲食物を持ち込むことは禁止されている。（ただし、病気などの理由で食事制限が必要な人は飲食物の持ち込みはできる）。試合の進行はスタジアム DJ が中心となって行う。スタジアム DJ が客席を回って観客に直接インタビューするなど、NPB とは異なる演出で楽しませて

くれる。5 回裏終了後には観客参加型イベントも開催される。客席からグラウンドに置かれたバケツに向けて予め渡されたボールを投げ、入れば商品がもらえる「サタデーシューティング」や「大玉転がし」、「ポスタークイズ」などである。またレクザムスタジアムでの試合では、MLB のようなオルガン演奏も試合中に行われる。

香川オリーブガイナースは 2013 年から小豆島後援会が、小豆島でも香川オリーブガイナースを応援し、小豆島から NPB 選手を輩出出来る基盤作り及び、野球を通じた青少年の健全育成と小豆島の雰囲気盛り上げるため発足した。

香川オリーブガイナースでは地域貢献活動を積極的に行っている。野球教室はもちろんのこと、地域の清掃、交通安全運動の参加、イベントなど様々な活動を行っている。

2013 年のドラフト会議では、又吉選手が中日ドラゴンズから 2 位指名を受けた。2 年連続で支配下枠での指名者を出すとともに、指名順位 2 位はリーグで過去最高である。

ボランティア活動として、小学校支援「夢に向かって」に香川オリーブガイナースの選手が参加し、「夢を持ち諦めず努力することの大切さ」、「今の時間を有効に習い事や勉強に時間を割き努力して夢を掴み取ってほしい」と夢や目標に諦めず努力することを伝えた。子供たちにボランティア活動を通して、夢や目標を持つきっかけを提供している。

2014 年 1 月 5 日、高松天満屋の「チャリティバザール」にガイナースの選手が参加し、昨年中日ドラゴンズに 2 位指名の又吉選手のサイン色紙、写真を限定数で販売した。年始での開催で、東京から香川に帰省されている方もブースに来られており、チャリティバザールでは、売上金の一部が球団活動資金として高松天満屋より寄付される。このチャリティバザールが経済効果として表れており、地元選手がプロ野球の場で活躍することにより徳島県が盛り上がるようになり、香川オリーブガイナースの注目度や期待が県民から集まっている。

香川オリーブガイナースは祭りのイベントに参加し、ブース出展でグッズ販売を行った。祭りに参加した地域の人たちとの交流を積極的に行い、サインや記念撮影の希望に快く応

じた。

香川オーリーブガイナースは、リーグスポンサー四国コカ・コーラボトリング株式会社の支援により「ガイナース応援自動販売機」の設置活動を展開している。これは、上の記述で述べたように愛媛マンダリンパイレーツの応援自動販売機の設置活動と同様である。飲料水の価格は通常の自動販売機と同様で、売上の一部が香川オーリーブガイナースの運営・育成資金となっている。香川では、13機の応援自動販売機が設置されており、経済効果の促進が期待されている。

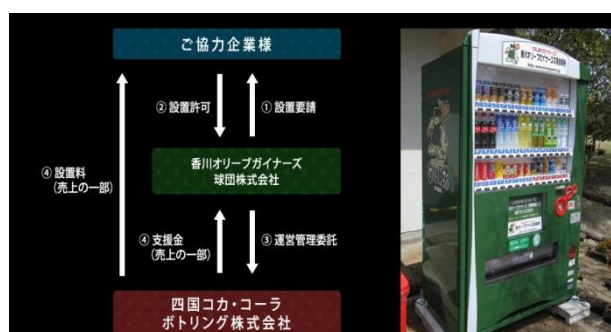


図7 設置要請から支払いまでの流れ 公式ウェブサイト引用

7. 4 四国アイランドリーグで活動している徳島インディゴソックスについての事例

2013年定期交流戦・ソフトバンク杯では、福岡ソフトバンクホークス三軍との定期交流戦であり、ソフトバンク三軍戦のみで最も高い勝率をあげたチームが優勝となるが、最終戦で敗れるまで7連勝を記録し、交流戦のリーグ最高勝率を更新した。

徳島インディゴソックスのイベント活動は、「とくしま農山村（ふるさと）応援し隊事業」の一環として、拝宮ふるさと保全会の伝統文化「拝宮和紙」の保全活動に参加し、地域の人々との交流を行うことや「110番の日」キャンペーンに参加し、適切な110番通報の呼び掛けを行ってきた。また、球団運営として、「生まれ！キッズ月見ヶ丘 de 体力UP～外遊びに挑戦・早春！野球編～」をテーマに小学6年生までを対象とした体力アップを目的としたイベントを開催。選手のタオルを使ったスローイング指導やティーボール大会など子供達も盛り上がり、一緒になって楽しそうに盛り上がっていた。

こういったイベント活動を通して、地域の人たちとの交流を深め、地域振興を行うことができる。選手の活動の姿が集客運営にもつながり、活性化の実現に近づけることができる。

8. 高知ファイティングドッグスの経営＝魅力

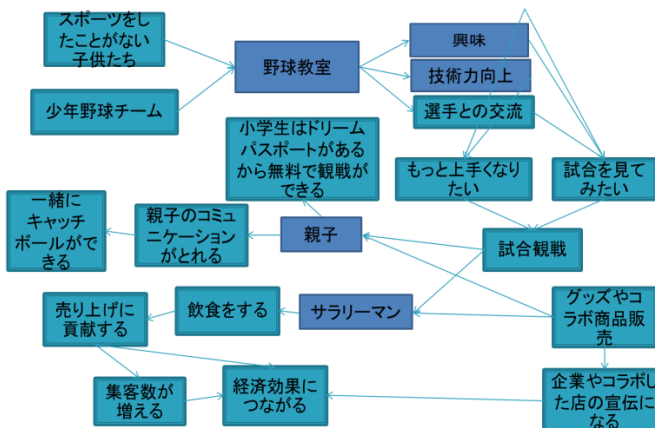
8. 1 野球そのものを活用した地域活性化の実現

事例で述べたように地域の活性化には様々な実現の仕方があるが、高知県越知町をホームタウンに活動をしている高知ファイティングドッグスは野球というスポーツをどのように活用すれば地域活性化に結び付けることができるだろうか。高知ファイティングドッグスは、これまで地域貢献のため様々な活動を行ってきた。野球教室では、少年野球チームを対象とした技術向上の促進を狙う活動や、スポーツをあまりしたことがない子供たち、家に引き籠り外で遊ばない子供たちに遊び感覚でスポーツの楽しさ、面白さを伝えること、夢や希望を与える活動を行っている。野球教室を行うことにより、子供たちに興味を持ってもらい、高知県のスポーツ人口を増やす狙いもある。野球教室で子供たちと選手の交流がスポーツの楽しさ、面白さを伝えることにつながり、「野球がしたい」、「あの選手みたいに上手になりたい」と夢や目標を持つ。子供たちが未来で活躍するために目標を与える一つのきっかけを提供している。

試合観戦に来る子供たちはドリームパスポートという無料で観戦できるチケットがあり、そのチケットはスタンプラリーになっており5回ずつ試合を見に来ることで高知ファイティングドッグスのグッズが入るというシステムになっている。ドリームパスポートにより子連れの親子の人数が増えている。2012年高知市営球場にナイター設備導入後、週末以外でもホームの試合が増え、子連れの親子、サラリーマン、高齢者の方たちの集客数も増えている。グッズ販売も行っており、オリジナルタオルやTシャツ、マスコットキャラクターのキーホルダーなど販売して経済効果につなげている。グッズ以外でも高知ファイティングドッグスは企業とのコラボレーションで販売しており、ホームタウンである越知町産の土佐あか牛を使用した牛すじカレーを越知町にある「居食屋かどた」監修で、選手にとっても元気の源となっている。こ

の牛すじカレーをレトルト商品として販売し、販売から半年で4000個完売している。他にも高知のうどん有名店「麺房三宅」とのコラボレーション企画も実現するなど、数多くのコラボレーションが行われている。ホームの試合だけでなく県外の試合の時もコラボ商品を販売しており高知県の食(特産品)についても認知され、経済効果につながっている。

野球を通して、大人だけでなく子供たちを巻き込みスポーツで高知県を盛り上げていくことも地域を活性化させる一つの在り方である。(図8)

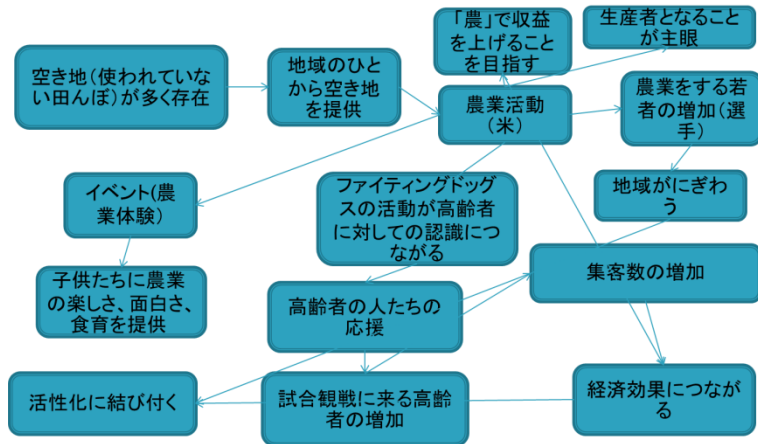


上(図8) 高知ファイティングドッグスの経営⇒魅力

8. 2 野球以外での活動による地域活性化の在り方

野球以外にも地域を盛り上げようと様々な活動を行っている。越知町には、使われていない耕作放棄地が数多く存在しているが、その耕作放棄地を地域の人々から提供して頂き高知ファイティングドッグスの選手が米を植えるなど農業活動にも力を入れている。選手が農業活動を行うことで、その地域の人たちに野球は知らなくてもファイティングドッグスの選手の認識につながり高齢者の方たちもファイティングドッグスの活動を通して応援している。高齢化が進んでおり選手の農業活動が高齢者に影響を与え、高齢者の方たちが元気になっている。また、イベントとして、子供たちが農業を体験することで楽しさ、面白さ、食育を提供している。農業体験を通して、食の大切さを教えることにも重要視している。いずれは生産者が主眼であり、農業で収益を上げることを目指している。農業での収益が経済効果となり、収穫した商品を加工して企業とのコラボ商品を展開していくことにもつなが

る。(図9)



上(図9) 高知ファイティングドッグスの経営⇒魅力2

9. 高知県のスポーツを活用した取り組みと他3県の活用した取り組みの比較

四国4県ともにスポンサーがついていることでイベント(野球教室、地域との交流)を数多く行っている。四国4県のスポーツは、ホームタウンが存在し、その地域を盛り上げることを目的としている。高知県スポーツの高知ファイティングドッグスと他の四国アイランドリーグの運営で比較したとき、高知ファイティングドッグスだけがドリームパスポートを利用している。このドリームパスポートは、岡山のJリーグファジアーノ岡山が発祥したもので、子供たちがドリームパスポートのスタンプラリーでグッズを貰うことができることや、スポーツにもっと関心を持ち、子供たちの夢のために取り入れている。私も、ドリームパスポートの存在が子供たちにとって大きな影響となると考えている。

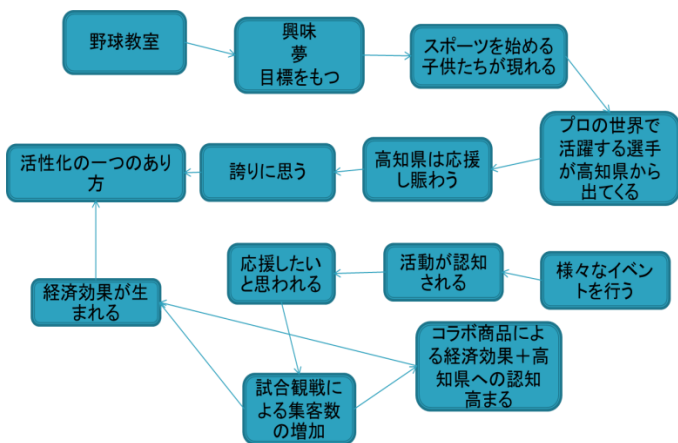
高知ファイティングドッグスは他の県にはない農業活動にも重視し取り組んでいる。高齢化が進む中、農業活動で若者の存在が高齢者に元気を与えている。高知ファイティングドッグスが活動を通して与える影響は大きく地域活性化の実現につながるだろう。

10. 高知ファイティングドッグスの経営と地域活性化の関係性

高知ファイティングドッグスの経営が地域活性化とどのよ

うに関係してくるのか。第5章で述べたように、その地域がスポーツを通して幸せを感じられるかどうかである。野球教室イベントで行う場合、参加した子供たちに夢や目標を提供している。夢や目標、興味を持った子供たちが選手との交流によりスポーツを始めるきっかけとなるかもしれない。スポーツを始めた子供たちが成長していき、将来プロの世界で活躍する選手も出てくるだろう。高知県からプロの選手が排出されたら、間違いなく高知県民は誇りに思い応援したくなる。そうすると高知県全体、特にその選手が育った地域の人々は試合をテレビで見るなど賑わうだろう。誇りに思うことで幸せにつながる。こういった地域活性化も一つのあり方ではないだろうか。(図10参照)

また農業活動もそうであるが、様々な選手との交流、地域貢献を行い、続けることによりその活動が野球を知らない人達にも認知されるようになり、高齢者から子供たちにも知ってもらえることができる。活動の積み重ねが地域の人たちの応援につながる。高知ファイティングドッグスの試合をホームタウンである越知町から高知市営球場に見に来ており、高知ファイティングドッグスに期待をしている。試合観戦による集客数の増加はお金を消費して見に来るため経済効果になる。試合を見に来る人たちにグッズ販売や高知県企業とのコラボ商品の販売促進になる。さらにコラボ商品を県外でも販売していることから高知県への認知度が高まる。経済効果の促進が地域の活性化につながる。



上図(10) 高知ファイティングドッグスの経営と

地域活性化の関係性のモデル

1.1. インタビュー (ディスカッション=課題の見直し)

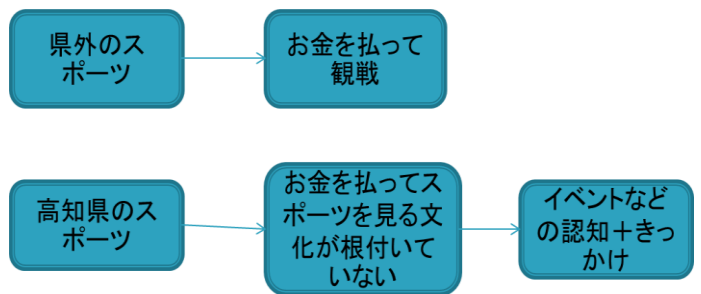
高知ファイティングドッグスの経営に関して昨年度は大企業のスポンサーが出資しなかったことが原因で1000万円の赤字。しかし、スポンサーの数は増えている。スポンサー収入が7割を占めているため今後ともスポンサーの拡大が必要である。

経済効果につなげるため農業活動による生産品を企業とのコラボ商品として売り出すことも必要。

広報事業では、広告、チラシだけでなくユーチューブに動画を上げるなど認知を増やすため必要である。

集客運営について高知県にはスポーツの試合をお金を払ってまで見に来る文化がなく、イベントなどを通しての活動が試合に見たくなるようなきっかけを与えることが課題である。

(図10)



上(図10) スポーツの試合をお金を払って見る文化について「高知県と県外を比較」

1.2. 考察

球場に足を運ぶ人が増えるようになり地域だけでなく高知県全体が賑わうようになるには、野球というスポーツだけでなく、地域との交流を続けていくことが重要であると考えます。

高知ファイティングドッグスの経営について課題で述べたように一つ一つの事業の拡大(スポンサー、広報、集客運営、地域振興)が重要となる。

1.3. 今後の対策について

子供の自ら野球を学び楽しむ「野球教室」や、野球だけではなく「お祭り」や「ビールを飲んで観戦」などの価値の組み合わせ創造が更に必要である。

また、創造された価値の認知についても向上する必要がある。これは、現在の価値の認知についても同様である。

さらに根本的な課題である愛着や誇りの創造については、地道な地域との交流や、スター選手の存在などが重要である。

また、外部リーグへのステップアップなどの夢が付加される必要がある。

参考文献

消費者行動論体系 田中洋（著）

スポーツマーケティングを学ぶ 広瀬一郎（著）

徳島ヴォルティス オフィシャルサイト ウィキペディア

徳島ヴォルティス ホームタウン活動 参照

<http://www.vortis.jp/>

<http://www.vortis.jp/blog/index.php?c=13>

愛媛マンダリンパイレーツ ウィキペディア

公式ウェブサイト参照

県民球団愛媛マンダリンパイレーツ 支援事業

<http://www.m-pirates.jp/chiikikouken.php>

http://www.m-pirates.jp/sp_vending/

<http://www.pref.ehime.jp/h12100/7791/documents/05-07.pdf>

f

香川オリーブガイナース オフィシャルサイト

ウィキペディア参照

<http://www.oliveguyners.jp/local/>

<http://www.oliveguyners.jp/support/vending.html>

<http://www.oliveguyners.jp/topic/2013/11/post-464.html>

<http://www.oliveguyners.jp/topic/2013/10/post-453.html>

<http://www.oliveguyners.jp/topic/event/>

徳島インディゴソックス ウィキペディア

球団運営日記 参照

<http://blog.indigo-socks.com/?cid=4>

<http://blog.indigo-socks.com/?cid=14>